



# おちほ

第39号 平成13年3月15日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



# ふくむ今昔

新装のあざみ寮・もみじ寮  
竣工をお祝いして

理事長 増田正司

時ならぬ前日来の雨もあがつて寒中にしては穏やかな日和の1月28日に、あ・も寮の近回りの人たちに披露する竣工式に招待され、式典に参列し後に新装の寮舎を見学することができた。建設に当

て寮内の検討委員会と設計者を交えた数年にわたる研鑽討議が実を結んだ見事な建物群に脱帽し、感嘆するばかりだった。それは当日参列された人たちが等しく感銘されたことだろう。旧来の施設を越え、建築の思想と哲学に立脚した、生活のビジョンを展開し、生活の方向を示唆するかのようであった。入所者の「保護育成」などという「施設意識」を切り捨て、おおらかで暖かい抱擁力に包まれた住まいがここに生れたのだ。こうした具現創造は、三浦理事長さんや法人理事さんを中心にして、齊藤寮長さん石原寮長さん先頭の職員集団に培われてきた、入所者の福祉の生活を展開してきた実践にうらうちされた精進のたまものと感ぜざるをえなかった。大津市長等に開設されて以来50年ちかく、つねに入所者の生活をだいに拡大してきた。

設計者から設計の意図や基本について伺え、旧来の施設感覚にないざん新で人間科学にもとずいた未来性を感じさせられ、目からうろこが落ちる思いだった。施工業者の献身的な施工が紹介されたが見回って改めて得心させられた。



▲新築のもみじ寮・あざみ寮

三浦理事長さんの挨拶に、ご家族や多くの方々からの絶大な協力に感謝する言葉が述べられたが、いつも四方八方に心くばりして多くの人たちとの協力をいただけていることに、あ・も寮の人の輪をつなぐ謙虚な風格を感ずることができた。

細心にして大胆な決断により完工した竣工に、石部地区のみならず県下全域の、さらには障害福祉の在り方に一石を投じられたものと全幅の賛意と敬意を表し、今後ますますのご発展を祈るばかりである。

(二〇〇一年二月五日誌す)

# ふくむ今昔

# だれののための社会福祉法

寮 長 山 下 陽 一

## 一 利用者の立場に立つて

昨年(二〇〇〇年)六月社会福祉事業法が全面的に改正されました。社会福祉事業法が成立以来五十年を経て新たに今日の課題である老人や家族の問題、社会構造の変化に伴う諸条件により新しい制度に組み立てるために全面的に見直されることになったものです。

この改正内容の要点はいくつか挙げる事ができますが、第一に「利用者の立場に立った社会福祉制度」にするというものです。

従来の法制度のもとでは家族などからの相談により調査や判定などにより法律で定められている制度を県や市町村などがその内容を決定して各施設に「措置(そち)」され、お受けした施設はその見かえりとして措置費を受け施設の運営に必要な経費に充てるといいうのです。

現在の落穂寮は平成十五年三月までこの制度により運営されることとなります。しかし同じ年の四月より、どの制度を利用するのか

自らが決定でき、受けるサービスを選択できるという制度に切り替わられます。その利用にあたっては利用者負担の支払いと市町村からの支援費の両方が施設に支払われこの財源をもとに施設が運営されることとなります。

## 二 地域の一員として

次に挙げられるのは地域に根ざした福祉の充実を挙げることができま。旧法においても地域福祉サービスの提供は定められていたのですが、新法ではより具体的な概念が示され、福祉サービスを必要とするひとが地域社会を構成する一員として生活し活動できるように務めなければならないことが明文化されました。

## 三 担う人たちのため

この法制度の改正により従来にはなかった利用者側とお引受けする施設側の間に「契約」に基づくサービスの問題が生じるようになりました。日常にものを買ってお金を支払うことは一種の契約なのですが、福祉施設に馴染みのない

新しい概念に戸惑っているのが実情です。

さて、この改正で、大切なことなのに十分に触れられていない部分があることにきずかされます。

それは家族の人たちや施設で働いている者など実際に福祉を担っている人たちの位置付けが示されていないのではないかとこの懸念です。たしかに国会でもこの法律の審議にあたっては民間の学識経験者を参考人として意見を聴かれたようで福祉の現場の人が二人参考人質疑に出席しており、「勤労条件等の改善」の付帯決議がなされています。それらが実際にどのよう

に条文に反映されたものか解かりませんがはっきりと見えていない感じがします。

いうまでもなく家庭や施設において興奮や様々な行動障害を起している人々への虐待や体罰は許されることでもないし効果があることでもありません。日常の自分の行動がなにをもたらすのかを常に問いつつ対応しなければなりません。

せん。同時に、ご家族や指導員たちがアザを作り殴打され前歯を折らねながら日々の支援や対応にあたっていても現実なのです。利用者の立場に立つほどに担う側にとつてこれらの問題をどのようにとらえなければならぬのか今解決しなければならぬ問題として積み残されているように思えてならないのです。

## まとめ

大変おおざっぱですが新福祉法の改正の主な点として、一利用者の立場に立ったもの、二地域福祉の推進を挙げていること、最後に三としてその福祉を担う人のためということが含められなければならないのではないかとこの問題を挙げました。制度は新しくなりましたが、この制度に沿って今後の福祉の現場において点検しながら不十分なところを補いつつ法的制度的に福祉社会が成熟することを願っているところです。

☆



一番最後の出発になった年長旅行第一班は、二月六日(火)・七日(水)と浜名湖方面に行ってきました。出発の日はいくくの雨模様でしたが男子隊五名、女子隊四名、職員三名の十二名が元気良く出発



三班は目的地が富士山方面と、かなり遠方だったためバスの中の時間がとても長くなってしまいました。そのクオイレ等で時間がかかる人も多く、常に時間との戦いだったように思います。バスに乗ることも楽しめない人はまだ良かったかも知れませんが、目的地での時間が少なく、申し訳けない気持ちでいっぱいでした。

しました。まず最初にお菓子の城へ行きました。みんなでクッキー作り挑戦。生地をのばして型をとってオーブンへ。とてもおいしそうなクッキーが出来ました。三時のおやつにはおいしく頂きました。そこにはお城など色々なものがおおしくできていました。お昼にはケイキッキングでみんなたくさんケーキを食べました。また浜名湖では大きな遊覧船に乗り楽しむことができました。ホテルでは豪華な夕食と温泉をゆっくり満喫しました。二日目は航空宇宙隊・浜松広域館に行きました。広大な敷地に巨大な飛行機が展示されていました。中では飛行機のシミュレーターや、実際の飛行機に乗って操縦体験をしたりとみんなパイロットになろうと挑戦しました。また自衛隊の洋服もきて気分を満喫しました。

お昼ごはんには浜松名産のうなぎを使ったうなぎ、みんなパック食食べていました。寮生さんにもぎやかに楽しんで過ごさることができました。寮生さんはお腹いっぱい食べて職員の方が心配する程でしたが、元気に落着いて帰ることができました。

しかし、そんな事を知ってか知らず寮生さんみんなはとても良い表情を見せてくれていました。一日目の「富士山アリアパーク」では、バスの中から普段見ることのない動物に興味津々で、窓に顔をべったりくっついて見ていたり、指をさして「アリアー」と大きな声で叫んだりしていました。

二日目の「緊急ハイランド」では全員が一掃行動(同じ乗り物に乗る)するのは難しかったため、二班に分かれました。二班はその当時世界一といわれていたジェットコースター「ジャマ」に乗り、職員はアラフラだったにもかかわらず平然と乗っていたり、もう一度乗ろうとする寮生さんには驚きました。

もう一班は観覧車に乗り、景色を見たり汽車に乗ったりとゆつたりめの乗り物のんびりと楽しんでいました。二日目の「緊急ハイランド」では全員が一掃行動(同じ乗り物に乗る)するのは難しかったため、二班に分かれました。二班はその当時世界一といわれていたジェットコースター「ジャマ」に乗り、職員はアラフラだったにもかかわらず平然と乗っていたり、もう一度乗ろうとする寮生さんには驚きました。

待ちに待った年長旅行、空模様も少し心配でしたが、一路和歌山に向かってさあ出発。一日目は白飯のクワハウスへ。疲れも見せずそくそく水着に着替えて温水プールへ。イルカのようにスイスイと自由自在に泳ぐことはできませんが、優雅な気分でのんびりできたと思います。サウナに入り、ハーブ風呂につかったり、水着を着たりと寮生はひと味違ったお風呂に満足してくれたのではないのでしょうか。欲を言えばもう少し時間とれば良かったかも知れませんが、入浴後はバタバタと夕食に向かったのですから。

二日目は黒潮市場パルケキユー。昼食の時間がくると市場の中を散策しました。おみやげ物や海の幸を見たのですが、みんなの頭の中は昼食のパーベキユーのことでいっぱいだったようで散策もそこそこ。昼食の場所が集まってきた。パーベキユーが始まると次から次へ食べるのに焼いている職員が悲鳴を上げそうになりました。お腹いっぱい食べた後はとても満足そうでした。職員もうれしく思っていました。二班は職員・グループ班でした。二日間ともおいしい物

年長旅行組の4班は10月18日から泊り2泊1回山奥の湯郷温泉、倉敷子米り園方面へ行ってきました。メンバーは男子棟から高山崇志さん、北村輝也さん・高田じゅんさん、女校からは西井孝子さん・佐山香代さん・紺谷由紀子さん・小林桜さんで、職員4名を合わせた小人数の旅行です。

うトラブルがあったり、バタバタしてしまし、出発したのが予定より2時間半遅れた11時でした。ジャンボタクシー2台に乗り込んで出発し、ファミリーマート・マーケット体験農場に着いたのが15時でした。活動時間は2時間でしたが寮生さん達はパン作りをしたり、動物に触れたりとか楽しみでおりました。

温泉宿に到着してから夕食はもちろんの華中心の豪華さでボリュームもあり、みなさん個々のペースで味わっていました。食後は温泉へ、この日でも寒く、露天風呂は凍るほどでしたが、日頃の疲れを癒すことができました。2日目はメインの倉敷子米り園へ。当初、子供向けミュージカルが目玉だったので、午前中は乗



をお腹いっぱい食べることができました。ただ今回は体を動かすことがあまりなかったので少々きつかったかも知れないと思います。職員は反省するところですが寮生さんたちは大満足だったのでうれしく思います。みなさんお疲れ様でした。来年度も楽しみにしてて下さいね!?

# 年長旅行記

り物に乗り、昼食を済ませ、おみやげを買ったのが目的だった人も多かったかも知れない。ミニミュージカルを見ました。キャラクターが道路まで来た時はあけにとられていました。みんな楽しそうにいました。





五班は、信州方面に行ってきました。

全く近づけなかった寮生さんもありましたが、それなりに楽しめたようでした。

そのあと、お茶会で抹茶をたてたのですが、きりんと作法を習ってできる人もいましたが、職員が手伝ったりして自分なりにお茶をたてたりしている人もいました。しかし、殆ど作法など関係なく、たてたお茶をおいしそうに飲んでいました。

2日目の「リンゴ狩り」では、リンゴのそもぎ方を初めに習ったのですが、そんなことは全く気にすることなく、水からどんだんリンゴをもいでいました。3種類のリンゴがあったのですが、次から次へともいで食っていました。はじめは皮をむいたのから食べていたのですが、そのうち皮ごと食べて、シシマで残った心配する程でもって、大丈夫と心配する程でした。

この旅行では、移動時間が長くバスの中に行きたくて多くなくなってしまったにも関わらず、ビデオを見たりしてのんびりと過ごせていました。

2日間、寮生、職員ともとても楽しい時間を過ごすことができました。

私たち第6班は、今までに例のないレンタカーを借りて、職員2名の家族旅行的な雰囲気の中、職員が運転して旅行という形で誰に気を使わずとも、車内でもワイワイ喋りながら静岡岡中田島砂丘へ車を走らせてきました。寮生さんの中に砂遊びが大好きな方がいて、おもしろい遊びでもらおうと鳥取砂丘は広くはなかったけれど、人もそれほどいなかったのが夢中になって遊んでみた姿が印象的でした。また、目の前は太平洋が広がりに入りそうな勢いではいない、穏やかな寮生さんでした。宿泊は、中田島砂丘からしばらく車を走らせ、御前崎シシマホテルにて大きなお風呂で汗を流して、おいしい夕食を頂きました。

2日目は、御前崎から数時間車に乗って伊良湖まで行き、日頃おらず寮では食べ慣れないランチバイキングでお腹を満足にさせてこの旅行第2の目的フェリーに乗り込みました。車から下りてデパートの方へ行く、10月の風はさすがに冷たく感じました。けれど動き出すと徐々に暖かくなった寮生さん、初め徐々になっていた寮生さんとも慣れてきて、寮生さんの中には、



はしゃぎすぎて職員が服をしっかり握っていないと地面に落ちてしまうのではと思わせる場面もありました。今回の旅行は、レンタカーということもあり、人数的にもとてもアットホームな感じで、日頃あまり見られない表情を見ることができたと寮生さんと一緒に楽しむ時間を過ごした旅行になりました。

# 道中記

予定変更!! けど楽しかった! 朝から雨、雨、雨、予定していた播磨中央公園でのサイクリングにアスレチック: けれど「姫路の天気はどうか解らない」とりあえず出発してみよう! という事で寮生さん2名職員3名を乗せたキヤパンは一路姫路へ!



かし、行けども行けども雨は止まず、一旦名塩PAで作戦会議。姫路市マップ。そこには姫路セントラルパークの案内!! 「よし、今へ行く」と急ぎ変更。着いてみると平日ともあって園内はガラガラで、キヤパンに乗りながらゆめゆめ動物園を見ることができました。「猫、犬」と言ってみたり象のエサを食べようとしてみたりもありましたが、普段見る事ができない動物に興味津々の寮生さんの表情に、職員も自然と笑顔がこぼれてしまいました。帰りに中華で堪能、後は寮へ。

私達第8班は日曜りで京都にある梅小路蒸気機関車館に行ってきた。私達3人も職員も、小山さんだけという二人っきりの旅だったので、時間になったら予定も途中で変更してしまったりなどして思いっきり楽しんできました。現地までは電車に乗って行きました。以前よりお母さんから小山さんは電車が好きだといふ事を聞いていたのでこの交通手段を選んだのですが、やはり行くまで少し心配でした。しかしそんな心配は不要でした。とても静かに乗り、外を笑顔で覗いていました。食事は途中デパートに寄って好きな物を選んで、近くの公園に食べました。梅小路では電車の模型を、興味深げに眺めていました。二人っきりののんびり旅、私達にはこのペースが最高にありました。



9班年長旅行(マキノスキ) 青山さん、久米田さん、職員3名でマキノスキに職員のみきました。今までツリ遊びで何回か行ったことにはありましたが、本格的にスキに挑戦するのは初めてのことです。青山さんは、思うように動けない恐怖心からギャンギャン言いながらもたらんだんと自分なりにストックを使って止まる方法を覚え、なだらかな斜面では私の後ろについて受けていました。「久米田さんは一度フラトにも「こわい」とい言いならぬんとかすべつては転びてきり返しながら降りてくるのができたり二人共すべっている時は必死でしたが、すべった後ははじめてでしたが、とても疲れたことでよかったです。



# 石部南小 南の子びびるのフエスティバル

去る10月14日、南っ子びびるあいフェスティバルに参加しました。落穂寮からは、教室を借り切って織物や粘土、紙づくりの展示を行いました。また、運

動場でのキックターゲットでは、思いきりサッカーボールを蹴って、まを狙いました。普段から自由時間に寮の運動場でボールを蹴っているので、その成果が出せたことでしょう。体育館では、バスケットのゴールに向かってボールを投げるフリースローに挑戦しました。はてさて、その結果は……？



10/14(土)……グラウンドでサッカーボールでまを当てゲームのようなものに参加。

おちは代表としては2枚当てて、さすがというところを見せていました。体育館ではバスケのフリースローをしてなんと2回目でゴールを決めるなどすばらしいところを見せ、周りの方々からも拍手をいただきました……

—生活記録より抜粋

日頃、スポーツで力を試す機会のない寮生さんたちにとって、とても楽しいひとときを過ごせたことと思います。参加させていただき、ありがとうございます。

10月17日、今年度2回目の石部中学校との交流会が行われました。

- ❁ 前回は午前中のみで雨降りだったため、体育館での歩行や風呂そうじ、機能訓練にとどまっています。
- ❁ 今回は一日交流。午前中は外に出ての歩行などを共にし、お弁当を
- ❁ 食べた後はいよいよお仕事です。各日課班によって全く内容は異なり、織物を見学したり、缶つぶしを寮生さんと協力してやったり、
- ❁ 花壇の世話をしたり……。中学生の皆さんは慣れない作業に戸惑うこともあったでしょうし、寮生さん
- ❁ ともあつたでしようし、寮生さん
- ❁ はいいつもと同じ作業でも中学生の皆さんとやることで新鮮さがあったと思います。
- ❁ お互いにドキドキしながらも楽しい交流ができました。また、気軽に

## 石部中ふれあい交流

### 泉

▽成人施設に変わりました。建て物が変わり、以前に比べて物理的に快適に過ごせるようになりまし

た。でもその分、人間の機能は低下しています。行政の管轄が変わりました。費用は減額し、援助者の数も減りました。でも、利用者に変化はありません。基準も変わりました。今まで義務付けられていたものが、緩和されるところもあります。でも、職員の意識は、寮生の顔ぶれに変化がなく、その重さゆえに以前のまま変化なく過ぎていきます。社会が目まぐるしく変化しています。でもこの閉ざされた社会は、五十年前とどう違うのか。人はほとんど入れ替わっています。人間関係に線り越しはありません。その人と人が築き上げたものはその人との間で完結してしまうのです。それが彼等の特徴なのです。私が、変わらなければ……。

### 木言

目に見えて初めて人は気づく。でも、その時は既に手遅れになっていることが多い。見えないうちに気付く事が大事なのは誰でも知っている。それができないのは愛していないからだろうか。

